

# ジェンダー研究攻撃と重なる

牟田和恵大阪大学教授



私たちが科研費に採択されて行ったジェンダー・フェミニズム研究に対して、自民党の杉田水脈（みお）衆院議員は、無理解と偏見にもとづく誹謗（ひぼう）中傷を種々のメディアを通じて繰り返し、私たちの名誉を大きく傷つけました。私たちは、学問の自由とフェミニズムに対する攻撃と捉え、杉田議員を名誉毀損（きそん）で提訴し

ています。

## 「国益を損なう」

杉田議員は、私たちの「慰安婦」問題を扱った研究を「反日」研究だとして、そうした「国益を損なう」研究に科研費を助成すべきでないと言明してきました。さまざまな社会運動や活動と連携してジェンダー平等への道をさぐっていかうとする私たちのプロジェクトを「政治活動であって研究ではない」とおとしめ、性や身体をテーマとするイベントに嘲笑（ちょうしょう）をあびせ、こんなのは学問ではないと評しました。こうした暴言を放置すれば、科研費への政治介入を許すことにつながると私たちは考えました。学問の自由を守るために、ここで歯止めをかける必要があるとたたかっています。

日本学術会議への人事介入にかかわる動きは、杉田議員によるジェンダー研究への攻撃と重なります。どちらも学問への政治介入であり、国民を分断して統治するものです。

ジェンダーが科研費のジャンルになったのはここ20年ほどのことです。先達の女性たちが草の根から研究を始め、声をあげて学問として成立してきました。

日本学術会議は、ジェンダー平等を实践する立場から、女性会員の比率を高め、多様性に努力してきました。ジェンダーに関わる提言も数多く出しています。ジェンダー研究の成果にもとづいて、政府の政策・制度の不備、不作為を批判しています。

## 論点をすり替え

自民党は、学術会議会員の任命拒否の理由を説明していません。その一方で、学術会議のあり方を検討する必要がある、と論点をすり替えています。6人の任命拒否にとどまらず、学問の自由を保障するために政権に対して高い独立性をもつ組織のあり方に、手を突っ込んでくるのではないかと懸念しています。

私が所属する日本女性学会も任命拒否に対する声明を出しています。日本学術会議の独立性に対する政府の干渉・介入に抗議し、ジェンダー平等を実現するための研究を前進させるべくたたかいつづけます。

聞き手・写真 武田恵子

むた・かずえ 1956年生まれ。大阪大学教授（歴史社会学、ジェンダー論）。著書に『部長、その恋愛はセクハラです！』など

しんぶん赤旗 電子版 2020年11月22日【1面】